

令和7年度 第1回大阪府地域職域連携推進協議会（概要）

- 日時:令和8年3月19日(木)10時30分~11時30分
- 場所:国民會館大阪城ビル 12階 武藤記念ホール(小)
- 出席委員:
栗津委員、岡村委員、川崎委員、瀧本委員、立岩委員、
仲谷委員、浜本委員、弘川委員、福島委員、槇山委員、
宮島委員、宮田委員、森島委員、山本委員 計14名(50音順)

<議題>

- ◆ 「第4次大阪府健康増進計画」の令和7年度 PDCA 進捗報告について
- ◆ 健康づくり関連計画のベースライン値設定と次年度以降の PDCA 進捗報告について

【意見概要】

- 多岐にわたる事業、万博関連の取組み、ライフコースアプローチの重要性について周知していることがわかった。大阪らしさとして「笑い」と健康の関連性に着目し、「笑い」を活用した健康づくりを取り入れているか。
- 大阪府健康づくり実態調査において、「笑い」に関する質問項目はあるか。
- 大阪府の健康づくりに関する取組みの認知度を分析しているか。
- 医療機関や外来看護師等は、ハイリスク層や治療中断者へのアプローチの重要性を感じている。行政は医療機関とどのように連携しているのか。
- おおさか健活マイレージ「アスマイル」はどのくらいのダウンロード数か。
- ポピュレーションアプローチをすると、健康意識の高い人には届くが、低い人には届きにくい現状がある。健康状態の実態は、大阪府内でも差がある。底上げできるようなアプローチがあれば市町村の格差の縮小につながると思う。

【事務局回答】

- 大阪府健康づくり実態調査では、「笑い」に関する項目はないが、笑いを含めた健康意識の低い層にも届きやすいアプローチを検討したい。
- 健康意識は、大阪府健康づくり実態調査により調査している。調査の結果を踏まえ、啓発につなげたいと考えている。
- 治療中断者やハイリスク層への支援については、国保の重症化予防事業にて支援している。医療機関への受診へつなげる支援等についても引き続き行っていく。
- 「アスマイル」は約50万人程度のダウンロード数でけんしんデータやアンケート、コラム等多岐にわたって活用している。

- 市町村の健康格差については、現状を踏まえながらアプローチしていきたい。

<報告>

保健所圏域等における地域・職域連携推進事業について

【意見概要】

- 現在分析している NDB データは、社会保険も含むか。
- 地域健康カルテや大阪府健康ダッシュボードは、現場でどのくらい活用されているか。
- 職域におけるヘルスリテラシーに課題が多い現状であるが、職域に限った大阪府の健康に関する取組みの認知度調査は実施しているのか。
- 地域職域連携推進協議会をハブとして企業経由で取組みをしてもらうことで、もっと認知度が上がるのではないか。産業医等へのアプローチを考え、認知度を向上してはどうか。
- 大阪府健康ダッシュボードは、いつ公開するのか。

【事務局回答】

- NDB データには、社会保険のデータも含んでいる。地域健康カルテや大阪府健康ダッシュボードの活用状況については、今後しっかり把握し市町村の声を踏まえて改善していきたいと考えている。
- 職域に限って健康に関する認知度調査は行っていない。大阪府健康づくり実態調査では、回答者へ職業を聞いており、健康意識の分析はできる。
- 大阪府健康データダッシュボードの公開は、令和 8 年 3 月中を予定している。